

第3回恵那市教育振興基本計画策定委員会会議録

開催日時 令和7年11月5日（水） 午後1時30分～

開催場所 恵那市役所 西庁舎 4A会議室

出席委員	委員長	相原正文
	副委員長	西尾朋子
	委員	瀬瀬康雄
	委員	鈴木圭子
	委員	安田和枝
	委員	西部良治
	委員	森川彰夫
	委員	三宅祥市
	委員	熊谷春彦
	委員	鷹見健司

事務局	教育長	岡田庄二
	副教育長	工藤博也
	事務局長	鈴木幸宣
	事務局次長兼社会教育課長	柄澤史枝
	教育総務課長	瀬瀬千尋
	教育総務課総務係長	志津博光

開会

教育総務課長

定刻となりましたので、ただいまから第3回恵那市教育振興基本計画策定委員会を開会いたします。本日の司会を務めます教育総務課の瀬瀬と申します。よろしくお願いいたします。本会議につきましては、恵那市教育委員会附属機関等の会議の公開に関する要綱により公開を行い、会議終了後に会議録を作成し、市ウェブサイトで公開させていただきますので、あらかじめご了承ください。それでは着座にて失礼いたします。初めに岡田教育長よりごあいさつ申し上げます。

1 あいさつ

教育長 皆さん、こんにちは。第3回策定委員会にご出席いただきましてありがとうございます。1週間ほど前にこの資料が届いたかと思いますが、内容と量もありますので、1週間ではなかなか大変だったのではないかと思います。恵那市の

教育委員会は、東濃地域の他市の教育委員会と比べまして、文化やスポーツ、幼児教育も含めて教育委員会として「教育」という言葉でくくらせていただいておりますので、この教育振興基本計画も幅広くなってきました。今日は、計画の全体を見た中で、少し表現にばらつきがあるのではないかと、レベル感が違うのではないかとということも含めていろいろと教えていただければと思っています。第4回策定委員会が最終案の確認ということになっていきますけれども、その前にパブリックコメントを行いますので、今回いただいたご意見を事務局の方でできる限り反映させながら、パブリックコメントを実施していきたいと思っていますので、忌憚のないご意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

2 議事

教育総務課長

それでは次第2の議事に入ります。事務局から順番に説明いたしますが、資料の方を事前にお目通しいただいていると思いますので、事務局からの説明はできる限り簡潔に説明させていただきたいと思います。計画案には、第2回策定委員会で委員の皆さまからいただいたご意見をできる限り反映しておりますので、そういった面も踏まえて事務局から説明をさせていただきます。

それでは、要綱第6条第1項の規定により、これからの議事は委員長が議長を務めることとなりますので、相原委員長に進行をお願いいたします。

委員長 皆さま、改めましてこんにちは。これより要綱に基づき議事の進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いします。

第2次恵那市教育振興基本計画案について、第1章及び第2章は文言等表示の修正が少しありますが、説明を省略し、第3章、24ページからですが、基本計画についての説明をいただきます。委員の皆さまにおかれましては、内容等ご確認のうえ、ご発言をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。説明は基本目標ごとに区切って行います。初めに基本目標1について事務局から説明をお願いします。

教育総務課総務係長

議事（1）第2次恵那市教育振興基本計画案について

第3章 基本計画 基本目標1について説明。

委員長 ありがとうございます。それでは、9項目の中で順次ご発言いただければと思います。また、専門の立場からその事業に関わることはお願いしたいと思います。

委員 31ページの「施策1－7 様々な学びの場の充実」のところで、大学との連携という話があったのですが、今行っているのは実践女子大学や中京学院大学ですね。昔、大学連携講座を行ったときにほとんど受講者がいなかったということがあるのですが、現状はどうでしょうか。この間、中央図書館岩村分館で実践女子大学による十二単の着装のイベントがあり、あれは大変多くの人が入っていたらしいですけど、過去に経済か何かを行ったときは非常に少な

った覚えがあります。これを進めていくにはPRの仕方やどのような題材をもっていくかということが大事だと思うのですが、その辺何か考えておられることがあれば教えていただきたいです。

事務局次長兼社会教育課長

大学連携講座は、実践女子大学の久保貴子先生にお越しいただく講座が続いていまして、ドラマで「鎌倉殿の13人」が放送されたあたりから、平安時代などのお話を聞いたりする機会を設けています。図書館のセミナールームがほぼ埋まるぐらいの人数にご参加いただいているので、20人ぐらいはいるのではないかと考えています。そのほかに、親子で学ぶ食育の講座を文化センターで開催したときは、お子さん連れのお母さんとお父さんにご参加をいただきました。中京学院大学は、子育ての関係でお話を聞く機会がありましたけれども、最近はお父さんの参加も少しずつ増えているのではないかと考えています。人数だけではなく、親子で聞いてもらえるというところも大事にしながら進めていきたいと思っています。

事務局次長 連携講座ではございませんが、大学との連携という意味では、33ページの主な取組例の中に「中学生を対象としたトップアスリートによるスポーツ教室の開催」がありますが、この取り組みの中では中京学院大学の方に講師としてきていただいています。また、中部大学では、こども園を中心に親子でできる運動遊びという観点で、もう7、8年になりますが、親子でできる簡単な体の動かし方の取り組みをずっとやっているので、このあたりは今後も引き続いて、一朝一夕に成果が出るというわけではないかもしれませんが、長い目で見て継続していきたいというふうには考えています。

委員 こういう大学との連携は、これからもっと幅広くいろいろな大学と進めていただきたいと思っています。公民館や文化センターの講座の中でもそういった連携ができれば大変ありがたいと思います。また、広重美術館の講座があるので、そのときでも大学の先生が来てみえますから、そういった関係でやってみてもいいかと思えますし、広重美術館の講座とは別に開催するという手もあるかと思えます。

委員長 ありがとうございます。その他はいかがでしょうか。

委員 29ページの「教員の指導力の向上」につきまして、ここに書いてあるとおり、恵那市は若手教員や経験の浅い教員が多いという中で、各種の研修を充実させていくという方向はとても大事なことだと思っています。加えて、やはり学校現場としては若い教員を育てる、いわゆる中堅・ベテラン教員の資質向上といったところも大事なことだと思っております。そういった中堅やベテランの教員が学ぶ中で、研修をする中で若手教員を育てるといった側面を考えると、例えば先進校へ視察研修に行くといったようなことを積極的に実施していただくということも大事なことかと思えます。今の恵那市の教育を大事にしながらも、教育の現状は本当に目まぐるしく変わってくる時代ですので、他県や他市など、そういったところにも目を向けて、新しい知見をきちんと身に付けた教員を育てていきたいというふうに考えますので、そういったところを取組例に

入れていただくとありがたいなと思います。

委員長 ありがとうございます。校内研修だけではなく、出かけて実際に見るということですね。ぜひお願いします。

委 員 ２８ページの「安全教育の充実」についてですが、この安全教育というのは全体の安全教育なのか、給食など食に関することも書いてあるのですが、その部分の安全なのか。また、交通安全や見守りなどもあるけど、そういったものも含んでいるという意味に解釈してよろしいですか。

教育総務課総務係長

そうですね。食育に関すること以外にも、命を守る訓練や地域と連携した見守りということで交通安全や防犯など、そういったものも含めての施策としております。

委 員 含んでいるということですね。今、いろいろな地域で見守りや交通安全の啓発活動を行っていますので、そういったこともまた推進してもらいたいと思います。

委 員 この「安全教育の充実」の施策は、学校教育課と給食センターと記載されています。しかし、防災や安全関係というと危機管理課が関わっていますが、他部署との関わりなく、これは教育委員会のことなのではないかと思います。

教育総務課長

市の他部署が全く関わらないというわけではありません。主な取組例に「地域と連携した見守り隊による安全指導の充実」という一例がありますけれども、特に大井町や長島町などでは防犯パトロールも熱心にやっていますので、そういった活動についてももちろん連携が必要というものになりますので、教育委員会だけではないですけれども、これは主に教育委員会の担当課としては、学校教育課と給食センターということです。

委 員 分かりました。

委 員 ３２ページ、３３ページの部分で、３３ページの主な取組例に「スポーツ指導者・ボランティアバンクの充実」と書いてあります。これが３２ページにもあってほしいなという気持ちです。今、地域クラブの指導者も不足していると言われています。例えば、企業にお願いして、企業の中でバレーボールをやっていた人とか商工会等と連携を取って、そういう人たちを発掘していくという部分を含めて、アスリートの育成の方だけではなく、指導者・ボランティアバンクが充実していくといいと思います。

委 員 先ほど大学との連携の話がありましたが、スポーツの分野でも大学の部活動の選手が中学校の指導に関わる仕組みを考えていただけるといいと思います。今、スポーツ指導やボランティアがあまりみえないということですが、やはり仕事を持っている方はなかなか指導に携わることが難しい状況だと思います。また、学校から部活動が離れて、地域のスポーツ指導者の下で行っていくということもありますので、大学と連携し、選手が土日に教えに来てくれるような環境整備を進めていただけるとありがたいと思います。

委員長 ありがとうございます。

委員 31ページの「様々な学びの場の充実」の中に、地域教育拠点の整備があります。これは恵那南中学校の統合にあたっての懸念の解消の一つというようなところだと思ったのですが、どういったものなのかというイメージがもう少し出てきてもいいのかなという気がしました。施策の説明文の中に、「学びに取り組める環境を充実させる」という表現はありますが、もう少し踏み込んだ何かがあってもいいかなという印象を持ちました。

委員長 事務局の方で、考えがあればお願いします。

教育総務課長

この説明文のところに書いてあるように、地域教育拠点の一つの目的は、学びの継続です。恵那南中学校が、令和8年4月1日に開校いたします。学びというものは、その学校だけではなくて、地域でも学びを継続する必要があるということで、主に図書館、図書室を改修することを今一般的にやっております。この地域教育拠点はいろいろな使い方があると思うのですが、特に土曜日や日曜日、祝日、長期休暇のときにコミュニティセンターに行きますと子供たちが勉強しています。特に夏休み中は、どこのコミュニティセンターも何人か勉強をされていて、そこを充実することによって、学校だけではない学びを継続することができます。もう一つが、いろいろな使い方がありますけれども、恵那南中学校が開校すると親御さんたちとの待ち合わせ場所にもなります。もちろんスクールバスは全部出すのですが、もしかしたら塾へ行く子、親御さんを待つ子など、限られた時間の2時間なら2時間をどこで過ごすかということで、学校で過ごすことはできないので、恵那南中学校を少し下りてくるとコミュニティセンターがあって、そこに大きな図書室があります。ここで待ち時間を過ごしていただいて、勉強していただく。このような待ち合わせ場所にも使っていただければと思っています。この地域教育拠点は、はじめ恵那南地域にしか設置はしませんけれども、その様子を見ながら、旧恵那地域にもこういったものを広げていきたいということで、ここに一文が入っているということになります。

委員長 その他の項目でいかがでしょうか。

委員 25ページのこども園のところで、「英語あそび」を入れていただいてありがとうございました。幼児教育課の方で英語活動の保育士の研修にも取り組んでもらっているんで、ありがたいと思います。幼児教育の中では、保護者と接する機会が多くあります。そのため、ここに記載されている「家庭との連携を図る」という点は重要であり、しっかりと網羅されています。ただ、移住者の方などの場合、遠方に祖父母がみえるため、家庭内での習慣やしつけが十分に共有できないことがあります。例えば、園での話ですが、子供のかばんをお母さんがすぐに持ってしまうことがあります。そうすると、子どもは「ありがとう」という気持ちを持ちにくくなります。なぜなら、そのかばんはお母さんのものになってしまうからです。そこで、「自分で持つことを大切にしよう」「もしお母さんに持ってもらうなら、『持つて』と言って、その後『ありがとう』を言う」ということまで教えられると良いと思います。実際にこうした話をした

ところ、「そういうことを教えてほしかった。核家族なので分からなかった」という声がありました。そのため、幼児教育の中では、家庭のことも考えながら取り組んでいきたいと考えています。

委員長 そのほか26、27ページ。そして30ページの読書活動の推進についていかがですか。

委員 学力のベースは読書だと思いますので、とにかくまず読書ができる子供にするというのが家庭教育の一番の目標かなと思います。よく本が読めるということは集中力もあるということなので、スポーツにもつながることです。とても大事なことできちんと挙げていただいているので、とてもいいと思います。

委員長 そのほかどうでしょうか。

委員 恵那市中央図書館岩村分館を造っていただきましてありがとうございます。利用者も結構多いようです。特に平日ですと恵那特別支援学校の電車で通学している子が待ちやすいですので、時間待ちでたくさん来ています。そのほか、日曜日などでも一般の方も子供連れの方も来てみえますので、本当にいいところだと思っています。奥の方にスタディールームがありますけれども、そこも日曜日などは学生が数名来て、朝から晩まで勉強しています。大変いいことだと思っています。

委員長 学校図書館の状況はどうでしょうか。

委員 恵那市は小・中学校の学校図書館を本当に充実させてくださっているのも、本も潤沢になってきています。昔から大事に読んでいる本と、今新しく読む本とがいい割合で図書館に入っているものですから、図書館に通う子供たちが本当に多くて、今日も午前中の休み時間に図書館の様子を見に行ったのですが、20人から30人が本を手にとって読んだり、座って読書に親しんだりしています。また、中央図書館から学校図書館巡回司書が学校に来て、季節に合ったコーナーなどを図書館に作ってくれています。そういうところで子供との触れ合いもできているところですので、読書活動、図書館利用については充実してきていると思います。

委員 こども園の方も小・中学校と同様に巡回がありますし、親さん向けに図書館司書からお話ししていただく親子の図書の会のようなこともしています。あと、図書館がどこにあるのかを知るため、秋の遠足などで図書館を訪れて、読み聞かせをしていただくという形で図書館活動をやっております。

委員 私の経験ですけど、図書館の使用時間や図書の貸出数と高校生の学力は比例しています。全然違うのです。図書館職員がデータを取って教えてくれたのですが、読書量の多い学年は圧倒的に学力が高いのです。だからこのところで、親御さんに対しての乳幼児期の読み聞かせの講座を開いていただいているというのが、これは本当に地域の子供の学力のベースをつくる上で、とても素晴らしいと思いました。

委員長 ありがとうございます。それでは基本目標1については、このような方向性でお願いしたいと思います。続きまして、基本目標2の説明に入りたいと思いますが、よろしいですか。では、事務局から説明をお願いします。

教育総務課総務係長

議事（１）第２次恵那市教育振興基本計画案について

第３章 基本計画 基本目標２について説明。

委員長 ありがとうございました。それでは、先ほどのような形でご発言のある方は挙手をお願いいたします。ここは社会教育に関連する部分ということで、私もそういう立場にございます。施策２－１では「子育て環境の充実」があります。少子化が進む中で、若い親がどれくらい恵那市に帰ってきているのかを考えると、ふるさと恵那を思い出し、場面によっては帰ってくると思いますが、幼児教育の中で保護者への支援がますます重要になってくると思います。ここに書いてある「誰でも通園制度」の実施など、分かりやすい取り組みが示されていますが、保護者の声を聞いて、２０年後に向けた施策が取組例に挙げてあるのではないかと思います。

委 員 ３５ページの「豊かな心と社会性の育成」で、取り組みの方向性に、「地域や関係機関等とも連携し、早期からコミュニケーション能力の向上を目指すとともに、他者を理解しようとする態度を醸成し、多様な人となつがる力の育成を目指します。」とあり、その取組例として、「異なる文化や立場への理解促進」があります。今、恵那市の中でも異文化の人、外国人が非常に多いです。それは、小学校の中でも変化があります。そういう人たちの、子供はすぐ慣れて日本語を話せるかもしれないが、親など大人とはどうやって共生していくのか。地域とのつながりが全くないので、どうやってコミュニケーションを図っていくかということです。ただ、立場や文化は違うのですけど共生社会ということで、一緒に生きるということを目指さなければいけないと思いますので、そういうことを考えて、子供にも異文化、あるいは国が違う人との交流を進めていかないと極端な形になってしまうのではないかと思います。子供のときから文化が違う人たちとのコミュニケーションを取っていくための方策、手段を教育の中で考えていく必要があるのではないかと考えています。

委員長 私も学校現場にいたときに国際交流ということで、外国人に学校へ来ていただいていたので、そういう異文化交流というのは、学校の中では子供たちにとって結構あるのではないかと思います。地域の中でとなると、私自身も具体的には見えてこないのですが、どうでしょうか。

教育総務課長

学校では交流があると思います。大人同士の関係ですと、やはり外国人で日本語が話せないという方も多くいまして、恵那市国際交流協会をご存じかと思いますがけれども、そちらで日本語教室を開催しています。その中で恐らく日常会話など、必要最小限の言葉の勉強をしながらコミュニケーションを図る取り組みをしています。ただ、恵那市国際交流協会は、市民会館という市役所の表側にある建物で教室を行っていますが、恵那市中から外国人が集まっているかどうかというのは今の時点では分かりませんが、月に何回かはそういった交流を行っています。ただ、それがどれだけ成果につながっているかというのは分かりません。

委員 月に3回ぐらい日本語教室をやられていて、20人から30人の外国人がみえていろいろなことをやってみえます。あと、市民会館の市民講座で、外国の食を通じて文化を学ぶ講座があります。例えばフィリピンの料理をやって、それを市民講座に申し込んだ人が、恵那市国際交流協会の方から講師を選んでもらってという形で行われています。「食」は非常に入りやすい文化であり、つながりやすいと思うので、ほかのコミュニティセンターなどでも、市民講座とかで進めていくのも一つの考えだと思います。市民会館では毎回十数人の方が参加されて、アメリカ、ブラジル、東南アジアなどいろいろな料理を毎回変えながらやっていて、そういうところにコミュニケーションの突破口があるのではないかと感じています。こういったことを親子で行うなど、もう少し広がるといいと思います。

委員長 ありがとうございます。そのほかどうでしょうか。

委員 質問ですけど、35ページのコミュニケーション能力などの育成ということで、演技的手法を用いたコミュニケーション講座や演劇ワークショップは、小・中学校では今どれぐらい行われていますか。

事務局長 小・中学校では、今後の取り組みになっています。昨年度から公募により、この手法を取り入れたワークショップを始めています。人数的には1回につき50人ぐらいずつが申し込みをいただいて、かなりリピートの方も多いです。これを学校教育へつなげるという意味でも、今年夏にまず小・中学校の先生方に体験していただきました。20人ぐらいの方が希望をされて受けていただいています。来年度、新たに開校する恵那南中学校でまず試験的に取り入れていく予定です。特にこの恵那南中学校については、20年前までは別々だった町が市町村合併によって一つになり、それぞれの文化の中で育ってきた子供たちが、同世代の子と交わる機会が少なくなっているということも統合の目的の一つでもありました。これまであまり知らなかった子供たちが、この手法を用いて、他者を理解して、自分のコミュニケーション能力を上げていくための手法として考えています。これがきっかけになって、この先全市的に広めていければと考えていますが、指導する方の体制の充実も必要ですので、その辺のバランスを見ながら拡大していきたいと考えています。

委員 岐阜県教育委員会は、これに力を入れてきています。今の教育長の堀さんが、東濃高校でスタート。文学座さんに協力いただいて始めたものです。基本的にはコミュニケーションが苦手な子が集まる高校があるものですから、最初は東濃高校で始めて、不破高校や恵那南高校などいろいろなところに展開しています。岐阜県では最初に岐阜市にある華陽フロンティア高校が演劇手法を用いて、自分たちで演劇をして、最後に学年で発表するということまで持っていくということで、子供のコミュニケーション能力アップ、自信を付けさせるということにつなげています。結構いい手法だと思いますので、特にその恵那南中学校で、いろいろな地域から集まってきた子供のところで始められるのはすばらしいことだと思います。先行事例、恵那南高校も当然毎年行っております。竹下景子さんも絡んでみえますが、文学座さんからプロを呼んで演劇の手法で

コミュニケーションが上手に取れるようなことを身に付けるということで、全国的にも演劇手法でコミュニケーション能力を高めるというものは、以前から注目されている手法なので、とてもすばらしいと思います。

事務局長 恵那市は、芸能プロダクションの株式会社ホリプロさんとの連携協定の中で、関係の講師の方に来ていただいているのですが、この方はすごく有名な講師の方で、今、若手俳優の一流どころは、1回はこの人に教えてもらいたいという人が大勢みえるそうです。代表で言うと鈴木亮平さんや佐藤健さん、「半分、青い。」にも出演された奈緒さん、杉咲花さんなど、そういった著名な俳優さんにも指導をしたようなレベルの先生に来ていただいています。今後は、先生のアシスタントができるような人材も併せてつくっていくという形で、コミュニケーション能力を育成するコースと、アシスタントを育てるコースに分けて、来年度から進める予定です。

委員長 そのほか、2－4の青少年育成、2－5の人権教育、2－6の文化・芸術活動がありますが、恵那市は結構進んでいるのではないかと思いますけれども、いかがですか。

よろしいですか。

それでは、基本目標3及び基本理念の実現に向けての説明を事務局からお願いします。

教育総務課総務係長

議事（1）第2次恵那市教育振興基本計画案について

第3章 基本計画 基本目標3及び基本理念の実現に向けてについて説明。

委員長 ありがとうございます。基本目標3については4項目ありますので、まずこちらについて何かありましたらお願いします。

委 員 40ページの「『志』教育の推進」のところですが、恵那市総合計画では、「自然とともに ひととまちが輝く 活力あふれる恵那」という将来像を基に策定が進められているわけですが、この教育振興基本計画案を読みますと、「自然」という視点が案外入っていないです。そこで、例えば、40ページの取り組みの方向性のところに、「ふるさとの自然と生活の魅力や先人について」といった形で、「自然」という言葉を入れていただけるといいかなと思います。41ページも同様に取り組みの方向性のところです。「郷土の自然や歴史、先人の生き方」といった形で、「自然」という言葉を入れていただくと、総合計画の将来像と合うのではないかと思います。それから、40ページの「『志』教育の推進」の説明文に「人口が減少する中で」とありますが、将来、恵那市も消滅してしまうのではないかと心配しております。子供たちのUターンを促進することを挙げた方がいいのではないかと思います。取り組みの方向性の2番目にある「キャリア教育を中心とした『生き方学習』を推進」というところで、その辺りをもっと進めてもらえるといいと思います。例えば、人口減少を少しでも遅らせる意味で、将来、農業、林業をやる子供を育ててほしいと思っています。市長さんの4つの基本政策の中でも「たべる」ということをおっしゃっています。やはり食べるということは、私たち人間にとっては一

番大切なことなのです。そのためには、食料生産が大事なので、今は「総合的な学習の時間」などでやってみえるかもしれませんが、子供たちに農業の大切さを、もう少し強く教えていただいて、将来、Ｕターンして特に副食を作るような農業をやってくれるといいかなと思います。そして、農業をするために大事なことは水ですね。水は山から流れてきますので、山を育てる、これが林業ですね。だから、林業に携わる子が出てくるといいなと思っています。今はなかなか山の手入れが行き届かなくて荒れているような状況ですので、これは大きな災害につながることもあります。Ｕターンして林業に携わるような子供が出てくるといいなと思っています。農業や林業の大切さを子供たちにしっかりと理解してもらえるようにしていただきたいと思っています。

委員 今の「自然」という言葉がなぜ出てきたかという、アンケートや子供たちに恵那市の魅力を聞くと、「自然が豊か、美しい」という回答が多くありました。その中で、この「自然」というキーワードを総合計画の一つのキャッチフレーズに入れたということです。〇〇委員がおっしゃられたように、この基本計画の中にも「自然」という言葉が入れられるなら、少し取り入れてもらえるといいのかなと思います。あとＵターンや農業、林業の大切さについては、十分に次期総合計画の取組の柱やその詳細な項目の中で、上位計画として補完をしております。あえてこの教育振興基本計画に盛り込むと、内容が複雑になり、整理が難しくなる懸念があります。そのため、今後は上位計画の中でしっかりと事業展開をしていきたいと思っておりますので、ご理解いただけるとありがたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

委員 今のお話を聞きながら、学校教育の中で、このキャリア教育を中心とした「生き方学習」について、本当に大事にやっていかなければいけないということを、改めて思っています。子供たちの学習カリキュラムの中に、やらなければいけないことがたくさんある中で、この「志」教育につながるキャリア教育については、今も大事にやっているところです。先ほどおっしゃられたように、工業に限らず農業、それから林業、そういったものも子供たちは大事ということは分かるのだけれども、大事だけではなかなかここに住もうとはならないわけで、その仕事や技術への憧れなど、そういった気持ち子供たちに持たせられるような充実した生き方学習を計画的かつ系統的にやっていかなければならないと思いました。先人学習についても、学校や地域によって少し差がある現状があります。この間、「佐藤一斎學びのひろば」が開館して行きたいと思っているのですけれども、では、そこに行って、どの学年で何を学ばせるのかといったところが、きちんと整理して学習をしてからでないと、行っても十分な学習効果が得られないと思います。それぞれの学校現場でも、そういったところを整理して、子供に身に付けさせるべき力や学習対応について考えていくことが大事なので、この３－１の「『志』教育の推進」に記載されている、この赤い１の文言は非常に大事だと思いました。

委員 ここの文言についてではないですけど、キャリア教育の内容というところで、私も大学に行く子を、何とか一人でも多く地元に戻ってきてほしいということ

を考えて高校教育をやっていました。私が恵那高校のときには、商工会さんをお願いをして、地元の良さを伝え、地元の生活の良さを、いかに子供の頃に考えさせるかということに力を入れました。一つの例では、一生を通じての可処分所得という観点でデータを作っていただいて、意外に都会と比べると地元の生活はいいのだよということを、中学校、高校時代に理解をしてもらえると思います。地元が好きな子はたくさんいるのですが、どうしても都会への憧れがあります。でも、長い一生を考えたら、地元での生活にはメリットがあることを、この中高6年間でしっかりとインプットできたら、「地元に戻ってきて頑張ろう」というところにつながるので、そういう観点で、具体的な活動で、「志」だけではなく、お金の話も含めメリットも伝える必要があります。企画課の方の「未来キャンパス」に関わらせていただいております、これは教育だけではないのですが、お母さんたちにもそういうことを知って理解してもらおうと、自分の面倒を見るために帰ってきてというふうにとられたくないのも誰か言いづらいのですが、「あなた自身のために地元の生活っていいよ」ということを、多くの方が言えるようになると、もっと地元に戻ってきてくれる人が増えるのではないかとことを狙っているいろいろなやってきました。そういった観点を具体的なキャリア教育の中で、「仕事についての憧れを持つ」「都会の生活と比べて、地域の生活はとていい」と、そういうふうを感じる人は絶対たくさんいるので、そういう人が戻ってきてくれるような方向性で、キャリア教育を展開して、意識を変えていくと違ってくるのかなと思います。住居の取得や通勤時間などでも全然違うわけですし、趣味ということでも、自然に目が向けば都会よりもはるかにこちらの方がメリットは大きいです。そういった全般的な生活の良さを子供たちに理解できるような形で、段階的に何度もインプットできると違うのではないかと思います。教育産業の関係者と話をしたときも、地方都市でそういうことをみんなやったら、もう少し地方都市が元気になるのではないかとことをよく言ってきましたけど、そういうことを教育の具体性のところで取り組まれると、とてもありがたいかなと思います。

委員長 3-1「『志』教育の推進」、3-2「『郷土に学ぶ』活動の充実」について、そのほかよろしいですか。

委員 この「郷土に学ぶ」ですけど、確かに子供たちは、郷土の歴史などいろいろなものにすごく興味があります。話もよく聞くのですが、それが中学生になると少し薄れて、高校生以上になると全然興味がなくなっているようで、地元に戻ってこないということがある気がします。みんな子供のうちは、こういう古墳などのいろいろな遺跡を見てすごく関心を持ちます。例えば、長島町の市民三学地域委員会では、工場見学などいろいろな行くのですが、小学生は喜んで来てくれます。明知鉄道に乗ったときも、すごく喜んでくれるのですが、中学生、高校生の参加はほとんどゼロです。なぜか小学校を卒業すると、そういったことに関心をなくしてしまうのかなと思うのですが、その辺がもう少し手当てできるといいと思います。ただ、子供の気持ちの問題はなかなか難しいところがありますが、何かやってみたいということは思います。あと、「伝統的な文

化・芸術の伝承」のところで、最近、歌舞伎をやる子に若い子が少し出てきています。それから、中野方町に「めれた囃子」というものがあるのですが、若い子が跡を継いでいます。そういった例外的ないい例もあるので、これから増やしてもらえるとありがたいと思います。伝統芸はいろいろあるのですが、やはり後継者は不足しています。小学校のときに教えても、中学校や高校へ行くともうやらなくなってしまうことがあります。この間、三郷小学校歌舞伎クラブに中村いてうさんという大歌舞伎の人が来て指導を受けましたが、その子たちが高校や大学へ行ったとき、どうなるのだろうと思ってしまいます。例外的に一人か二人はずっと続ける子もいますが、その辺の継続を支える仕組みが何かできるといいと思います。

委員長 実態はそういう状況でよく分かることですので、今後取り組んでいく必要があると思います。

委 員 今のご発言に少し関連してお願いなのですが、43ページの「伝統的な文化・芸術の伝承」の中で、恵那市は、やはり「地歌舞伎」という伝統文化をここに文言として入れていくべきではないかということを思います。年に1回、岐阜県への要望活動を行っていますが、その中においても「地歌舞伎の保存活動」への支援も要望しているところです。主な取組例として、「飛騨・美濃歌舞伎大会の開催」の記載がありますが、せっかく山岡町出身の中村いてうさんもおられますので、地歌舞伎の伝承についても、文言として入れていただくと、もう少し幅が広がると思います。

委員長 ありがとうございます。そろそろ時間が来ておりますが、44、45ページの「基本理念の実現に向けて」について、ご意見があればお願いします。

委 員 私はこのデータを読んで明るい兆しを感じました。私は現職で校長をやっていた時代には、恵那市を拠点とする教員の割合は5割を切っていたと思いますが、今は6割です。教員修学資金の支援を行っていただいている市は恵那市しかありません。そのため、市を挙げてそういう課題に対して本当に努力をしていただいているし、それによって成果も出てきているというのは、データを読んでもうれしく思いました。

委員長 今、〇〇委員におしゃっていただいたのは55ページの小・中学校の教員のグラフです。そのほかよろしいですか。それでは、計画案については以上で終了させていただきます。どうもありがとうございました。

教育総務課長

相原委員長、大変ありがとうございました。スケジュールにございますように、11月20日からパブリックコメントを実施いたしますので、本日、皆さまから頂いたご意見について、事務局の方で内容等を精査して、11月20日からパブリックコメントができるように進めてまいります。大きな方向性は変更ありませんので、字句の修正や追加する部分については、委員長及び事務局に一任していただきたいと思いますので、ご了承のほどよろしくお願いいたします。最終的には1月下旬に第4回策定委員会を予定しております。ここではパブリックコメントの結果についてご審議いただき、計画案の最終的な確認をしてい

ただ形になりますので、よろしくお願いいたします。

本日は本当に貴重なご意見を多数いただきましたので、これをしっかりとまとめ上げて、パブリックコメントに臨んでいきたいと思います。

大変長い時間、ありがとうございました。これをもちまして第3回教育振興基本計画策定委員会を終了いたします。お疲れ様でございました。